

2009.03.16 15:30~ (エンレイソウ 2 階、第二会議室)

1: 出席者

加藤^a・千葉・片山・平林^b・升井・大塚・富樫^c・浅野^c・吉田亨^{cd}・古立^c・村上^c・
芦沢^c (a:委員長, b:議長, c:オブザーバー, d:書記)

2: 報告

- 5/25-29 IAEA 核データ会議、テクニカルミーティングに古立・Ichinkhorloo 氏が出席予定
- IAEA 会議に、雑誌発行国が採録するという採録方針に反対する文章を提出する。
- 5 月には出席不可能のため、能登氏、千葉に参加依頼する予定である。
- 2010 年の韓国での核データ国際会議が、4 月開催予定である。

(以上、加藤)

- WG の報告(古立)
 - d2111-d2129 の採録作業がほぼ完了した。チェック作業を大塚と協力して進めている。
 - CINDA を 3 月中に送信予定である。
 - NRDF/A の仕上げ作業を行っている。
- 4 月より吉田が東大 CNS へ異動。(吉田)
- *特別会計における感度解析インターフェースの紹介を行った。(富樫)
- 新採録方針に対して、jcprg としては採録時に出版社別にとらわれるべきでないという提案(大塚)
- *共分散比較のためのデータを採録するために、OCR を導入した。(村上)

3: 議題

- GSYS のソースコード公開に関して
記録、業績に残ることを考えて、特許をとることを検討してはどうか?
 - 特許を本当に取れるかどうか。
 - 部分的な特許の可能性を考える。
 - 著作権の問題があるかどうか。

ノウハウ不足を考えると平田氏と相談の上で、以上の問題を検討する。

- モンゴル、カザフスタンの核データセンターと協定を結ぶ。

- 年次報告
 年次報告 (120 ページ程度を予定。以下のページ数については 2005 年度のもの) (承認)
 - a. 巻頭言 (片倉または千葉) 2 ページ
 - b. Sapporo-IAEA 核データ研究会報告(加藤+講演者) 15 ページ
 - c. NRDF/A (古立) ページ数未定
 - d. CINDA のエラーチェックと修正作業(村上) ページ数未定
 - e. 2008 年度辞書作業部会 (NTX-WG) 報告 (浅野) 12 ページ
 - f. 2008 年度に JCPRG から配信された EXFOR ファイル (吉田、古立) 11 ページ
 - g. 2008 年度に JCPRG から配信された CINDA ファイル (吉田、古立) 5 ページ
 - h. 2008 年核反応データセンター長会議報告 + Progress report (千葉、加藤) 10 ページ
 - i. 資料 : 2008 年度入力データ (吉田、加藤) 12 ページ
 資料 : 2008 年度の活動日誌 (NRDF 管理運営委員会議事録) 16 ページ
 資料 : 略語一覧 1 ページ
 - j. 日本荷電粒子核反応データグループ (JCPRG) 1 ページ
 - k. 研究者のみなさまへのお願い 1 ページ

原稿締め切りを 4 月末、
 編集委員は片山、平林と決定した。

- 来年度の予定に関しては、松本氏が来てから議論することとなった。

注) 議事録確認は今回、行わなかった。

次回、

次回開催予定日時 2009 年 4 月 27 日 (月) 18 時 ~

次回開催予定場所 情報基盤センター南館 108